

多様性の複文

——疑問詞連鎖構文の形式と意味——

池田 晋*

1. はじめに

中国語には、同一の疑問詞を前後で呼応させて用いる次のような構文がある。

(1) 我先回家先做饭。(先に家に帰った者が食事を作る。)

(2) 你喜欢吃什么就吃什么。(好きなものを食べなさい。)

2つの疑問詞は典型的には複文の前節と後節に1つずつ生起する¹⁾。“任指”の用法であるとされ、特定の対象を指すわけではないが、両者は必ず同一の対象を指していなければならない。例えば(1)であれば前節の“先回家”の動作主と後節の“做饭”の動作主が同一対象ということになり、「先に帰宅する者＝食事を作る者」という関係が保たれる。以下、前節と後節に生起する疑問詞をそれぞれ Wh₁、Wh₂ と記すこととする。

この構文の Wh₁ と Wh₂ には、“为什么”などを除くほぼすべての疑問詞を用いることが可能であり、また杉村 1992, 2017、胡松柏 2001 などによれば Wh₁ と Wh₂ の統語的位置にもほとんど制限がないとされる。“谁”“什么”“哪儿”など体詞相当のものなら主語、目的語、連体修飾語、“怎么(样)”なら連用修飾語や述語など多様な用例が観察される。

この構造については、古くは吕叔湘 1944、王力 1954 などの記述に始ま

* いけだ・すすむ 筑波大学人文社会系助教

1) “谁家孩子谁家抱。”(その家の子供はその家で面倒を見る。)のように、表面上は複文の形式を取らない例もまれに見られるが、基本的には同様の分析が可能である。

り、これまでに国内外で多くの研究者が考察をおこなってきた。しかし、研究者の立場によって論点が大きく異なっていたためか、構造の名称については未だ学界内で統一されるには至っておらず、“連鎖句（呂淑湘 1944）”や「疑問詞連鎖構文（杉村 1992）」、“法則句（鈴木 2015）」、「bare conditionals（Cheng & Huang 1996）」など、様々な用語が混在する状況が続いている。ここでは各名称の是非を論じることは避け、便宜的に杉村 1992 の用語を借用することとしたい。以下、本稿ではこの構造を「疑問詞連鎖構文」と呼ぶことにする。

本稿は、この疑問詞連鎖構文について、類似の意味関係を表す複文との比較を通して基本的特徴を整理し直し、構文の核心的意味および実際の文脈における具体的な意味機能を明らかにすることを目的とする。とりわけ、疑問詞が2つ生起するというこの構造特有の形式がどのような意味と対応しているか、という点に深く着目し、考察を進めていく。

なお、以下の例が示すように、この構造の Wh₂ の位置には、疑問詞の代わりに“他”や“那”のような定表現が生起する場合がある。

(3) 進今天敢砸这个大门,我非让他在监狱里蹲上几年不可! (《酒局》)

(今日このドアを壊す奴がいたら、そいつを監獄に数年ぶち込んでやる!)

(4) 回到你身边,我感到出奇地高兴,你在哪儿,那儿就是我的家——我唯一的家。(CCL)

(あなたのいるところが私の家なのだ)

こうした表現については、便宜上「Wh₁-D 文」と呼ぶこととし、疑問詞連鎖構文とは別にその位置付けを検討することにしたい。

2. 先行研究の検討

2. 1 これまでの疑問詞連鎖構文研究

疑問詞連鎖構文については、古くは呂淑湘 1944 などに詳しい記述があ

り、前節で述べた基本的特徴——具体的には、ここでの疑問詞が任指であること、同一の疑問詞が前後で呼応すること、2つの疑問詞が同一の対象を指すこと——が、既に明確に指摘されている。今でも中国国内の文法書などでは、疑問詞連鎖構文を疑問詞の特殊用法と位置付け、疑問詞の指示特性に言及するだけのものが多い。

一方、疑問詞連鎖構文を専門に扱った論考では、様々な立場から更に踏み込んだ議論がおこなわれてきた。とくに注目に値するものとしては、① ロバ文 (donkey sentences) と関連付けるもの、② 構文的意味を分析するもの、③ 相関構文 (correlatives) と関連付けるもの、の3つの立場が挙げられる。以下では①から③の代表的な先行研究を概観し、それぞれの問題点を検討する。

2. 2 ロバ文説——Cheng & Huang 1996 の検討

疑問詞連鎖構文をロバ文と関連付けて論じている最も代表的な先行研究としては、Cheng & Huang 1996 が挙げられる²⁾。Cheng & Huang 1996 は中国語のロバ文には3つのタイプがあるとする。1つは本稿の言う疑問詞連鎖構文——接続詞“如果”や量化詞“都”などを伴わないことから、Cheng & Huang 1996:126 はこれを「裸条件文 (bare conditionals)」と呼ぶ——で、残る2つはそれらを伴う(5)(6)のようなタイプの文(「“如果”条件文 (ruguo conditionals)」と「“都”条件文 (dou conditionals)」)である。

(5) 如果你有什么朋友，就介绍他给李四。(Cheng & Huang 1996:154)

2) ロバ文とは不定限定詞と代名詞の解釈が問題となる以下のような文を指す。

(A) Every farmer who owns a donkey beats it.

(ロバを所有するすべての農夫がロバを殴る。)

形式意味論の分野では、この種の文の論理構造をどのように分析すべきか、などの点について議論がおこなわれてきた。

(もしあなたに誰か友達がいれば、その人を李四に紹介しよう。)

- (6) 你有什么朋友, 我翻会把他介绍给李四。(Cheng & Huang 1996: 154)

(あなたに誰か友達がいれば、私はその人を李四に紹介するだろう。)

その上で、各タイプのロバ文の違いを記述し、それぞれ異なる意味解釈規則が適用されていることを指摘している。

Cheng & Huang 1996:153-155 によれば、これらのロバ文は、極性要素 (polar items) である疑問詞の量化の仕方に違いがあり、裸条件文における2つの疑問詞 Wh₁、Wh₂ は、1つの全称量化詞 (∀) によって同時にライセンスされている。このように考えることで、Wh を2回使用するのはなぜかという形式上の問題が解消され、また裸条件文に全称量化の読みしか成立しないという意味制約についても説明が可能になるという。

- (7) 你喜欢谁, 我就喜欢谁。(Cheng & Huang 1996:153)

(あなたの好きな人が私は好きだ)

例えば(7)では、「あなた」の好きな人物は「私」も全員好きだという解釈しか成立せず、そのうちの数人だけが好きだという解釈は成立しない。こうした意味的制約は、全称量化詞の作用によるものにほかならない。

これに対し、“如果”条件文、“都”条件文では、Wh₁ が予め存在量化詞 (∃) による量化を受けており、後節の定表現がそれを照応しているのだという。これにより“如果”条件文では、後節の定表現に全称量化以外の読みも許容されることになり、(5)であれば4人の友人のうち1人だけを紹介するという解釈も可能になる。一方、“都”条件文では、副詞“都”の作用により、存在量化の解釈は成立せず、全称量化解釈のみが成立する。

Cheng & Huang 1996 の分析は、疑問詞連鎖構文に全称量化の解釈しか成立しないことを指摘するなど、重要な事実を明らかにしているほか、“都”条件文との比較をおこなうなど、比較対象の選択の面でも大いに示唆に富むものである。しかし、その“都”条件文と裸条件文の意味につい

では、結果的にどちらも全称量化解釈しか成り立たないことを指摘しただけに留まり、より具体的な違いについて言及がなされていないため、疑問詞連鎖構文の意味的特徴が十分に浮き彫りになったとは言い難いところがある。また、疑問詞連鎖構文には“誰”“什么”以外に、“怎么”“多少”などの疑問詞も用いられることがあるが、これらの疑問詞に関しては、そもそも全称量化という観点からの分析が可能なのかどうか、やや疑問が残る。

2. 3 構文的意味の分析——杉村 2017、鈴木 2015 の検討

杉村 1992, 2017 は、疑問詞連鎖構文が条件文の一種であるとの立場から、その統語的特徴と意味的特徴について詳細な考察をおこなっている。杉村 1992, 2017 で指摘されている言語事実の多くは、疑問詞連鎖構文の本質を明らかにする上で極めて重要なものであり、本稿でも次節以降の分析の中で繰り返し言及することになる。ここでは杉村 2017 の構文の意味についての分析を紹介する。

杉村 2017 は Wh₁-D 文などの類似形式の意味を検討することで、それとの比較から疑問詞連鎖構文の意味を浮かび上がらせようと試みる。杉村 2017:8-14 は、Wh₁-D 文の中でもとくに“誰”と三人称代名詞を用いる文に焦点を当てて分析し、その意味が「決定」と「格言ふうの信念」の2種類に分けられると主張する。「決定」は程度の強さによって更に「誓い」と「意向」に分類される。

- (8) a. 谁要是不听，他就出去！【決定（誓い）】（杉村 2017:10）
（言うことを聞かないやつは出ていけ！）
- b. 谁没看过这个电影，我就把票让他。【決定（意向）】（杉村 2017:12）
（この映画を見たことがない人に、チケットを譲ってやる。）
- c. 谁如果不想做奴隶，他就得学会主宰自己。【信念（格言）】（杉

村 2017:13)

(奴隷になりたくない者は、自らを支配することを学ばねばならない。) いずれの例でも“他”を“誰”に置き換えられる。杉村 2017:9 では各タイプにおける Wh₁-D 文と疑問詞連鎖構文の違いを検討した結果、「決定（誓い）」の場合にとくに“他”の働きが際立っており、両構造の差異が明確になると指摘する。例えば (8a) は特定の誰かを想定した個人目当ての警告と理解されるが、この文の後節で Wh₂ を用いれば、特定の人物目当てではなく、不特定多数を目当てとした発言になるという。

杉村氏による意味の記述には、本稿も概ね賛成の立場を採る。しかし、「決定」や「格言ふうの信念」という意味が構文のどういう特徴から生じたものであるのかという点や、両者の間にどういった関連があるのかという点が、杉村論文では十分に説明されておらず、なお検討の余地が残されているものと思われる。

鈴木 2015:36-39 は、疑問詞連鎖構文は文脈により「ゲームのルール」「真理」など様々な意味を表すが、その核心的意味は「規則」であるとする。さらにこの構文の表す規則とその他の規則表現との違いとして、疑問詞連鎖構文は次のようなスキヤニングによる規則抽出過程を反映したものであると主張する。

(9) a. 誰出轨，誰就翻车。(道を踏み外した者は失敗する。)

b. 事件 1 张三出轨，张三就翻车。

事件 2 李四出轨，李四就翻车。

事件 3 王五出轨，王五就翻车。

事件 n ? 出轨，? 就翻车。

↓ 〈種々の事態に通底する普遍規則の抽出〉

【x 翻车，x 就出轨】

鈴木 2015 によれば、(9a) の文の背景には、事件 1 から事件 n までの複数の同種の事態の存在がある。その上でそれらの共通部分“××出轨，×

×就翻车”を文の枠組みとして残し、異なる部分“张三、李四……”を変項である疑問詞に置き換えることで疑問詞連鎖構文が成立していると述べる。

規則の抽出過程を反映するという鈴木 2015 の主張は、教学上の効果が高いことが報告されており、構文の本質の一面を捉えているようにも思われる。しかし、疑問詞連鎖構文は必ずしも実現済みの複数事態の存在を前提として成立しているわけではない。以下の例を見られたい。

(10) 谁能缓解失业，我就选谁。 (Luo & Crain 2011:761)

(失業問題を改善してくれる人には私は投票する。)

(11) [輪投げ屋の客寄せの台詞] “套圈儿，套圈儿，想套什么套什么，谁套到东西就归谁的。 (……)” (《老儿戏》)

(輪投げだよ、輪投げ、通したいものに通して、うまく通せたらそいつのもの。)

(10) は次回の大統領選についての発話である。この時点で大統領選はまだ行われていない上、投票機会も 1 回に限られるためそもそも規則抽出の基盤となる複数事態を想定することができない。また、(11) は輪投げ屋の店主が遊びのルールを説明する発話であるが、これも遊びのルールという性質上、規則が実演に先んじて成立していなければならないはずである。コーパスにおいて頻出するこれらの用例は、鈴木 2015 の規則抽出説では説明が困難である。とはいえ、疑問詞連鎖構文を 1 つの全体と見なし、核心的意味を探ろうとしたことは重要な試みであり、本稿も 3 節以降において疑問詞連鎖構文の複文全体としての意味を検討していくことになる。

2. 4 相関構文説

近年では、中国語の疑問詞連鎖構文をヒンディ語などに見られる相関構文 (correlatives、例 (12)(13)) と同種のものであると結論付ける論考や、実際に相関構文の一種と見なして類型論的分析を進めている論考が見られる。

(12) Jis ādmīm̄ ne yah patr likhā, vah bhārtīy hogā.

どの 男 後置詞 この手紙 書く 彼 インド人 だろう

(McGregor 1972:83) 【ヒンディ語】

(この手紙を書いた男は多分インド人だろう。)

(13) Ai nau, nay an.

誰 料理する その - 人 食べる

(Luo & Crain 2011:783) 【ベトナム語】

(料理した人が食べる。)

Luo & Crain 2011 は、Cheng & Huang 1996 などの先行研究の不備を指摘したうえで、意味特徴の類似性などを根拠に、疑問詞連鎖構文を一種の相関構文と見なすことを提案する。また、白 2012 は、相関構文には言語によって後節に指示詞などの定表現を用いるタイプと、後節に再度同じ疑問詞 (Wh₂) を用いるタイプが存在すると仮定し、中国北方からロシアに至る各地域のツングース諸語における両タイプの分布状況を調査している。調査の結果、ロシアに近い地域では前者のタイプが多く見られ、中国領内で後者のタイプが多く見られるという結論を示した³⁾。

疑問詞連鎖構文が相関構文であるという視点は類型論的位置付けを考える上で重要ではあるが、これらの先行研究では、当該構造における中国語と他言語の相違点の記述が十分になされていない。そのため、やはり相関構文説がこの構文をめぐる諸課題の解決に役立っていると見なすことはできない。なぜ中国語では後節で Wh₂ を用いるのかという問題や、なぜヒンディ語が表すことのできる (12) のような一回的な事態を中国語では表すことができないのかという問題については、いずれの研究でも明確な解答が示されていない。

3) ロシア語は「疑問詞一定表現」パターンの相関構文を持つとされる。白 2012 は以上の調査結果から、ツングース諸語がロシア語や中国語という近隣の言語から影響を受けた可能性を示唆している。

3. 複文としての疑問詞連鎖構文

3. 1 前節と後節の意味関係

疑問詞連鎖構文は基本的に複文の形をとる。このため疑問詞連鎖構文の意味的特徴を明確にするためには、複文としての特徴を正確に捉えておく必要がある。既に述べたように、疑問詞連鎖構文の前節と後節は常に「条件」と「帰結」の関係で結ばれており、(14)のような一般的な条件文との共通性を認めることができる。実際に疑問詞連鎖構文は接続詞“要是”や“只要”と共起することがある（杉村 2017:2、胡松柏 2001:17）⁴⁾。

(14) 要是明天下雨，我就不去。

（もし明日雨が降るなら、私は行かない。）

(15) 谁要是不听，谁就出去。

（もし言うことを聞かないやつがいればそいつは出ていけ。）

(16) 只要看见什么就买什么。（胡松柏 2001:17）

（何かが目に入りさえすればそれを買う。）

一方、呂叔湘 1944:447 等が意味の近さを指摘するように、任指の疑問詞を含む複文という点では、疑問詞連鎖構文は“不管”“无论”などを用いた「無条件複文」とも類似しているようにも見える。

(17) a. 无论谁参加我们组，我都欢迎。

（たとえ誰が我々のクラスに参加したとしても、私は歓迎する。）

b. 谁参加我们组，我就欢迎谁。

（私たちのクラスに参加した人を私は歓迎する。）

しかし実際には、両構文の表す意味関係は異なっている。無条件複文では、変数である疑問詞などの存在によって前節が2通り以上の事態に対応する可能性を示した上で、いずれの場合も最終的に1つの事態に帰結する

4) “如果”との共起はあまり見られないが、これは杉村 2017:3 の言うように“如果”の書面語的な性格とこの構文の相性が悪いためだろうと思われる。

ことが述べられる。前節が2通り以上の事態に対応することは、後節に“都”や“也”などの副詞が生起することからも明らかである。例えば(17a)では、小李が参加しようが、小王が参加しようが、それともほかの誰が参加しようが、私は一貫して歓迎の態度を取る、ということが述べられている。一方、疑問詞連鎖構文では、これと同様に前節に対応する事態が複数個存在しうるが、それらが単一の事態に帰結するのではなく、各々の条件毎にそれぞれ別個の事態に帰結することが示される。すなわち(17b)は、小李が参加すれば小李を歓迎する、小王が参加すれば小王を歓迎する…という、個々の場合ごとの対応を表す文となる。つまり、疑問詞連鎖構文では、前節で複数事態が想定されるだけでなく、後節でも変数 Wh_2 の存在によってそれと同じ数の事態が想定されていることが示されるのである。疑問詞連鎖構文と無条件複文との違いはまさにこの帰結部分の在り方にあるものと思われる。疑問詞連鎖構文は無条件を表す複文形式“不管～都/也”などと共起できないという事実も、こうした違いを裏付けている。

(18) *不管谁参加我们组，我都欢迎谁。

(19) a. 有一种黑色蝴蝶，(……) 不知从哪里听说，它是精怪变的，谁捉它谁就会倒霉。(《老儿戏》)

(ある種の黒蝶は…どこから聞いた話か分からないが、妖怪が変化したもので、捕まえた者に災いがあるという。)

b. *不管谁捉它谁都会倒霉。

(18)や(19b)では、“不管～都”によっていかなる条件であっても単一の帰結が導かれることを示すと同時に、後節の疑問詞が複数の帰結の存在を暗示していることになるため、意味的に矛盾が生じてしまうのである。

ただし、 Wh_2 を定表現で置き換えると、“不管～都/也”などとの共起が許容されやすくなるという点には注意が必要である (Cheng & Huang 1996:147)。

(20) 随后，江泽民主席、朱镕基总理多次强调，台湾不管谁当权，我们都欢迎他来大陆谈，同时，我们也可以到台湾去。（CCL）

（台湾で誰が政権を取ろうと、我々はその人が大陸に会談に来るのを歓迎する）

(21) 无论是谁偷东西，这偷东西的人就是贼。⁵⁾（王力 1954:78）

（盗みを働いたものが誰であれ、その盗んだ奴は泥棒だ。）

(22) a. 不管你在哪儿，那儿都是我的家。

（たとえ君がどこにしようとそこが私の家だ。）

b. *不管你在哪儿，哪儿都是我的家。

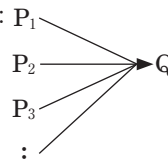
このことは、Wh₁-D 文の表す意味の範囲が純粋な疑問詞連鎖構文よりも広く、無条件複文の表す意味にも対応しうることを示している。無論、Wh₁-D 文の全てが“不管”の挿入を許すわけではないが、(20) などの文が成立するという事実を無視することはできないだろう。

3種類の複文——通常の条件文・無条件複文・疑問詞連鎖構文——の意味関係の違いは、以下のように図式化できるだろう。

(23) 3種の複文の意味関係

a. 条件文⁶⁾： P —————> Q

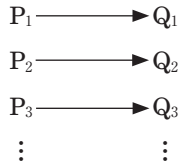
b. 無条件複文： P₁
P₂
P₃
⋮



5) 王力 1954:78 は疑問詞連鎖構文の Wh₂ が定表現に置き換えられると述べた上で、例としてこの文を挙げている。Wh₁-D 文と無条件複文を無意識のうちに混同したものと思われ、母語話者にとって両者が非常に近いものと捉えられていることが窺える。

6) “只要”や“一…就～”を用いた複文も、基本的にはこれと同様の意味関係を持つと考えられる。また、杉村 1992, 2017 では Wh₂ をゼロ代名詞 ϕ に置き換えた構造も疑問詞連鎖構文の一種とみなしているが、本稿ではこれも通常の条件文として扱っておく。

c. 疑問詞連鎖構文：



通常の条件文では、前節と後節は1対1の関係で結ばれており、無条件複文では、多対1の関係で結ばれている。これに対し、疑問詞連鎖構文の前節と後節は多対多の関係で結ばれており、これによって事態実現の在り方の多様な可能性が示されている。この図式では、疑問詞連鎖構文が条件毎に異なる事態に帰結し、単一の事態に帰結しないこと、“ $P_1 \rightarrow Q_1$ ”、“ $P_2 \rightarrow Q_2$ ”など個々の可能性の間には(23a)の条件文と同様の意味関係が成立していることが示されている。疑問詞連鎖構文が“不管～都／也”と共起せず、“要是”と共起できる理由は、この図式に基づいて明確に説明することができる。2つのWhが生み出しているのは、まさにこうした独自の意味関係なのである。

本稿の主張は、一見すると全称解釈を主張する Cheng & Huang 1996 の見解と類似しているように思われるかもしれない。しかし、Cheng & Huang 1996 が Wh の指示特性について全称解釈を主張していたのに対し、本稿では文全体について複数の実現可能性が存在することを主張しているという点で、その内実は大きく異なることに注意されたい。

3. 2 疑問詞連鎖構文の核心的意味特徴

疑問詞連鎖構文の弁別的特徴は、(23c)で示したような多対多の関係を持つという点にはかならない。多対多の関係とは、(17b)で示したような事態実現の在り方の多様性にかならないが、これは可能世界に対する話者の推論に基づき可能性として提示されるものである。疑問詞連鎖構

文の核心的意味特徴は、まさにこの「推論に基づく事態実現の在り方の多様性」を表すところにある。

この構文の意味が話者の推論という非現実領域に属すものであることは、可能性を表す“会”とは共起し、完了の“了”などアスペクト助詞とは共起しないという Cheng & Huang 1996:159-160 の指摘からも確認できる。

(24) a. 谁来, 谁就会中奖。(Cheng & Huang 1996:159)

(来た者が当選する。)

b.* 谁来, 谁就中了奖。(Cheng & Huang 1996:159)

(来た者が当選した。)

条件文が代表的な非現実環境であることは周知の事実であるが、条件文では一般に前節のほうに Wh が生起するものである。疑問詞連鎖構文が後節にも Wh を生起させるという事実は、この構文の後節の強い仮想性を反映したものと理解できるかもしれない。

前述のように、この構文の示す多対多の関係は、可能な事態実現の在り方が多様に存在することを含意する。このため、複数の実現可能性を想定しにくい文脈には疑問詞連鎖構文は適さない。

(25) (研究室で24時間体制で実験を行っている。教授が一時帰宅する際に、研究室に待機している大学院生に向かって)

a. 要是有什么事,就向我汇报。(何かあったらすぐ報告してくれ。)

b. # 有什么,就向我汇报什么。⁷⁾(起こったことを報告してくれ。)

(26) (食卓にバナナが1本だけ置いてあるのを聞き手がもの欲しそうに見ている)

a. 你想吃就吃。(食べたければ食べなさい。)

b. # 你想吃什么就吃什么。(何でも食べたいものを食べなさい。)

7) 例文冒頭の#はその文が文脈上相応しくないことを表す。

(25)は単に「報告」という行為だけが求められている状況であり、これは通常の条件文を用いて(25a)のように言うほうが適切である。(25b)の疑問詞連鎖構文は、「起こった事柄に応じて、それに応じた内容を報告せよ」と述べており、報告の在り方に踏み込んだ要求になってしまうため、この状況にはそぐわない。(26)も同様に、食べ物が入るだけに限られ、他の選択肢のない状況では、(26a)のように言うほうが適切で、(26b)のような言い方は不自然である。

3. 3 特殊な形式を持つ疑問詞連鎖構文

疑問詞連鎖構文の後節はしばしば“是 Wh₂”“算 Wh₂”という形式や、前節の一部分をそのまま繰り返すだけという形式を取る。前節の事態から継起的に発生する帰結ではなく、ただ話者の「それならそれでよい」という判断だけを示すことになり、事態に対する話者の「超然的態度」や「投げやりな態度」という付随的意味が生じる。

(27) 菲菲你也去求求你姨夫，能求出多少是多少吧，是你把存亮逼到这一步的，你也不能不想办法。(《河流如血》)

(頼んで出せる分だけ出してくれればそれでよい)

(28) (……) 秋天山上野果子熟了，上山采摘下来，反正摸到什么算什么，不能空手回来。(《老儿戏》)

(手に入ったのなら何だってよい)

(29) 你愿意到哪去就到哪去，这就是你的权利！(《河流如血》)

(どこへでも行きたいところへ行ってしまう)

複数の実現可能性の存在に推論を巡らすということは、好悪問わず様々な可能性を考慮に入れるということである。そのいずれをも「それはそれ」とみなすところから、「どのような結果であろうと受け入れる」という超然とした態度に繋がったり、「どうなっても与り知らぬ」という無関心で投げやりな態度に繋がっていくのだと思われる。

(29)のような形式は、更に「勝手に[する/しろ]」といった話者の態度を表明するための新形式（“愛谁谁”など）に派生していくことが報告されている⁸⁾。この段階に至っても根底には「事態実現の在り方の多様性」があり、その意味を担保する2つの疑問詞はそのまま新形式の中に残存しているのである。

3. 4 Wh₁-D 文の位置付け

疑問詞連鎖構文の核心的意味特徴は前節までで示したとおりであるが、それに対応する Wh₁-D 文の位置付けについて、ここで若干の説明を加えておく。3. 1 節でも指摘したように、Wh₁-D 文は無条件を表す複文形式“不管～都/也”への書き換えを許容する場合があります、この点からは Wh₁-D 文が無条件複文に近い性格を兼ね備えていることが窺える。しかしその一方で、Wh₁-D 文は疑問詞連鎖構文と同様に“要是”などの疑問詞を取ることもできる。

こうした不安定な振る舞いは、後節の定表現によって引き起こされるものと考えられる。ここでの定表現（“他”や“那”など）は、Wh₁を先行詞とする照応詞として用いられているが、その先行詞が任指であるために、形式上は指示詞や代名詞という特定指示的な形を取りながら、実質的な意味解釈の面ではその指示対象が Wh₁の値によって様々に変化するという二面性を持つことになる。このため、意味解釈上は基本的に疑問詞連鎖構文と同等の関係を表す複文として理解される一方で、定表現の特定指示としての一面に焦点を当てれば、意味内容や文脈の許す範囲で“不管～都/也”などとの共起が可能になるのだと思われる。

一方で、(8a)のように“要是”を伴っていても、特定指示的に解釈できる場合もある。この場合は、杉村 2017:9 の言うようにはじめから特定の

8) 李宗江 2009:13-14、杉村 2017:22-24 を参照。

人物を目当てとした発話であり、代名詞は形式上はもちろん、意味解釈の面でも実質的にはほとんど特定指示的である。むしろ前節の Wh₁ のほうが「形だけの任指」であるようにも感じられ、この場合は意味関係としては通常の条件文に近い。

このように、後節の定表現の持つ二面性のために、Wh₁-D 文の用法は、一方では無条件複文とも重なり、もう一方では通常の条件文にも接近するという複雑な様相を呈することになる。疑問詞連鎖構文と同様の意味を基本としつつ、更にそれよりも幅広い振る舞いを見せる構造であると言えるだろう。

続いて、疑問詞連鎖構文の中で、対応する Wh₁-D 文を持つのは“誰”と“哪”に限られるという点（杉村 2017:5-6）についても検討しておきたい。“什么”“怎么”などを用いた次のような文は、対応する Wh₁-D 文を持たない。

(30) 你喜欢吃什么就吃 [什么 / * 那个]。

(好きなものを食べなさい。)

(31) 心里怎么想就 [怎么 / * 那么] 说。

(心の中で思ったように言いなさい。)

この点について明確な解釈を提示している先行研究は、管見の限り存在しない。そもそも対応する定表現を持たない“多少”“几”などは例外であるとしても、“什么”“怎么”などを用いた文の Wh₂ が“那个”“那么”などの定表現へ置換できないという事実はどのように説明されるべきであろうか。

この現象は恐らくは、疑問詞本来の疑問用法における“誰”と“哪”の特性が関係しているのではないかと思われる。木村 2008:23、木村・大西・木津・松江 2017:11-15 によれば、疑問詞“誰”“什么”“哪(个)”はいずれも対象指定要求機能——未同定の要素について解の指定を問い求める機能——を備えているが、このうち“誰”と“哪(个)”は「小王」「張先生」

「これ」「それ」など「個」の指定を求める形式であるのに対し、“什么”は「スイカ」「パン」のような「範疇」の指定を求める形式であるという。こうした機能上の対立が疑問詞連鎖構文における Wh にもそのまま引き継がれていることから、上述のような違いが生じているのではないかと本稿は推測する。

つまり、ここでも“谁”と“哪（个）”は「個」としての存在と対応する形式であり、“什么”は「範疇」としての存在と対応する形式だということである。もともと「個」と対応する“谁”や“哪（个）”は、代名詞や指示詞といった基本的に「個」に対応する定表現によって直後でききなり照応を受けることが可能である。これに対し、「範疇」と対応する“什么”をいきなり代名詞や指示詞で「個」として照応すると唐突さや不自然さが生じてしまうことになる。“什么”に対応する Wh₁-D 文が存在しないのはこのためであろうと思われる。“怎么”などその他の疑問詞については今後の研究を俟たねばならないが、少なくとも“谁”“哪（个）”のような個体指定要求機能を持つものではないと推測される。

4. 具体的文脈における疑問詞連鎖構文の意味

3. 2 節で述べた核心的意味特徴は全ての用例に通底するものであるが、事態実現の在り方の多様性という特徴が、個々の場面の中でどのような形で含意されるかについては、大きく分けて2つの方向性がある。

まず1つ目の方向性は、疑問詞連鎖構文を用いて「未然」の事柄を述べる場合に観察される。未然用法の疑問詞連鎖構文は一律に、話し手によって新たに提示される「行動指針」ないし「ルール」を表す。

(32) “是你请我吃饭，你想上哪儿就上哪儿！”（《酒局》）

（あなたの行きたいところに行って）

(33) 你们不要吵闹，要遵守纪律，谁不听体育委员的指挥，我就处分

進！（《老儿戏》）

（体育委員の指示を聞けない者は俺が処罰する！）

(34) 「輪投げ屋の客寄せの台詞」“套圈儿，套圈儿，想套什么套什么，
进套到东西就归进的。（……）”（= (11)）

(32) は聞き手が従うべき指針を示すことで聞き手への命令となっており、(33) は話し手が従う指針を示すことで意思表示をおこなっている。同時にこの指針は聞き手にも向けられ、警告の含意を持つ。また、(34) は客である子供たちが従うべきゲームのルールを提示している。

未然用法において、実現の在り方の多様性という特徴は、「選択肢の多様性」という形で具現化する。すなわち、この場合の疑問詞連鎖構文は、「発話時に希求される事態の実現の仕方には複数の選択肢があり、どの1つを選んでもよい」という意味において多様性を示している。(33)(34) などのように複数回の事態実現が予測される場合であっても、1回1回の事態実現にはやはり複数の選択肢が用意される。未然用法における事態実現方式の多様性は図1のように示すことができる。

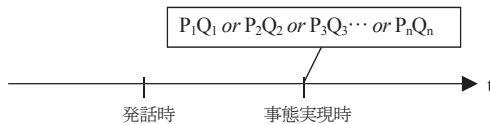


図1 未然用法における事態実現の在り方の多様性

これに対し、通常の条件文や無条件複文が命令や意思表示として用いられる場合は、選択肢の多様性は存在しえない。

(35) 要是有什么事，就向我汇报。（= (25a)）

(36) 无论谁拦，我也要走。（誰が止めても私は行く。）

(35) の条件文で聞き手の取りうる行動は肯定か否定の2択に限られるし、(36) の無条件複文に至っては話し手の選択肢が1つしかないことが示さ

れている⁹⁾。これらの複文は、言ってみれば直接的な命令や意思表示を表している。

疑問詞連鎖構文は、直接的な命令や意思表示となるものではなく、あくまでも取りうる選択肢の幅を規定するだけの指針・ルールにすぎない。話し手はこの構文を用いることで、自らが作り出した新たな指針やルールをその場において発動し、対象者間でそれを共有することを求めるのである。指針・ルールの発動とは、言い換えれば話し手自身の「決定（杉村 2017:8）」の表明にほかならない。

第2の方向性は、主に疑問詞連鎖構文が「習慣的事態（habitual events）」を述べる場合に見られる。この場合の疑問詞連鎖構文は、習慣的事態を構成する個々の事態に共通する「規則性」や「法則性」の意味を表す。

(37) 第二是“以业为氏”，也就是从事什么行业，就姓什么，比如制陶的是陶氏，制绳的是索氏，做旗帜的是施氏，编篱笆的是樊氏。（《国家》）

（2つ目は「業を以て氏となす」、すなわち従事する業種に応じた姓を名乗る、ということである）

(38) 事实证明，哪个地方观念更新得快，哪个地方的经济发展就快。（CCL）

（速く考え方を改めた地方の経済発展は速い）

(39) 皇帝说，“要是我呀，一定要正义，绝不会要金钱。金钱有什么稀奇？正义可是不容易得到的呀！”“谁缺什么就想要什么，我的陛下。”（铃木 2015:37）

9) (17a)の無条件複文の場合、客観的状况としては「Aさんを歓迎する」「Bさんを歓迎する」「Cさんを歓迎する」…という複数の選択肢が存在しうるが、複文としてはあくまでも「取りうる選択肢は1つ（=歓迎）しかない」ことを表している。

(人は自分に足りないものを望むものです、陛下。)

(37)は「過去の習慣」の例で、古代中国における苗字についての決まりを述べたものである。(38)は発話時点までの観測に基づいた「過去の習慣」とも、未来の予測をも含めた「恒常的習慣」であるとも言える例で、経済発展に関する法則性を述べている。(39)は恒常的習慣の例で、人間の思考に無意識の規則性が存在することが述べられている。

このような用例において、構文の核心的意味特徴である「事態実現の在り方の多様性」は、習慣を構成する無数の個別事態の存在と対応している。したがって、疑問詞連鎖構文の習慣用法は、同一事態の繰り返しではなく、実は類似事態の繰り返しを前提としたものにすぎない。この点において疑問詞連鎖構文は通常の習慣表現とは異なっている。

(40) 爸爸每天早上六点起床。(父は毎朝6時に起きる。)

(41) 我一去食堂就吃麻婆豆腐。(島津 2013:151)

(私は食堂に行くといつも麻婆豆腐を食べる。)

条件文の形を取らない(40)はもちろん、条件文である(41)も恒常的事態を表すことがある(島津 2013:151)。この場合は完全に同一の事態(「6時起床」「食堂で麻婆豆腐を食べる」)が繰り返し実現していることが前提となるが、疑問詞連鎖構文の習慣用法では、その構成要素となる個々の事態は全く同一ではなく、基準を満たす範囲で一定のバリエーションを許容する。この点を踏まえると、習慣用法における事態実現の多様性は以下のように図示できる。

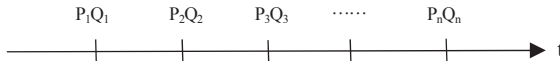


図2 習慣用法における事態実現の在り方の多様性

また、疑問詞連鎖構文が話者の推論に基づいて事態実現の複数の可能性を提示するものであることから、それが表す習慣的事態も、客観的事

実をありのままに述べるものでなく、話し手自身の解釈・見立てを述べるものとして理解される。このことは例えば(37)から確認できる。ここでは囲み部分“以业为氏”とその直後の疑問詞連鎖構文は同じ内容を表すが、前者が客観的事実の提示、後者がそれに対する語り手自身の解釈・説明となっており、明確な使い分けが見られる。また、恒常的な規則性を表す用法であるにもかかわらず、疑問詞連鎖構文が法律文書や公式競技のルールブックなどに用いられないのも、話者の解釈・見立てを表すことと無関係ではないように思われる¹⁰⁾。以上のような本稿の立場からすれば、杉村 2017:8 がこのタイプの意味特徴を、「真理」(杉村 1992:84)ではなく、「信念」と名付けていることには強く賛同できる。

稀に、疑問詞連鎖構文は特定の時点における事態反復を表すことがある。

- (42) 孩子们也通宵抢鞭炮，上街头跑到下街尾，即便下雨下雪，天寒地冻，我也会坚持一夜不睡，哪里鞭声响起便往哪里跑，和同伴们一道前赴后继。(《老儿戏》)

(爆竹の音が鳴るところへあちこち駆け回った)

- (43) 我的悟性相当高，学谁像谁，甚至比许多著名歌星唱得都好，发展好了将来说不定还会成个百变歌后呢！（CCL）

(私の感性は相当優れていて、誰の真似をしてもそっくり)

(42) は子供時代の大みそかについての回想で、下線部はその限定された時間の中で「爆竹の鳴るほうへ走る」という行為が何度も繰り返されたことを表している。また、(43) では歌の練習の過程で複数の有名歌手の真似をし、いずれもよく似ていたことが述べられている。これらの例では、

10) 《中华人民共和国刑法》(約 12 万 5 千字)、《国际象棋新竞赛手册》(約 13 万字)を対象に調査をおこなったところ、疑問詞連鎖構文は 1 例も検出されなかった。ただ、正式な書面語でそもそも疑問詞が使用されにくいという点は差し引いて考える必要がある。

書き手は習慣的事態よりも更に短い時間で図2のような繰り返しがおこったことを想定しているものと思われる。短い時間幅の中に多様な事態実現方式があると見なすところから、「あちこち」「誰も彼も」という汎説的な事態反復を表すに至ったものと思われる。ただ、やはりこれも話者の推論に基づくものである以上、事実をありのままに描写したものというよりは、過去の出来事に対する語り手自身の解釈や脚色を加えたものであると考えるべきであろう。

なお、疑問詞連鎖構文は、実現済みの1回的事態を表すことはできない。既に何度も述べたように、疑問詞連鎖構文は事態実現の在り方に多様な可能性が存在することを表すものであるが、そのような複数の可能性を述べることと、特定の事態が具体的な在り方を以て既に実現したこととは、原理的に矛盾があるため、成立しえないのである。

5. 諺語への接近——疑似的諺語としての疑問詞連鎖構文

同一の疑問詞を対にして前後に配置するという形式は、しばしば諺や格言のような響きを生み出す。とくに文が「コンパクトで対称的」(杉村2017:7)な場合や「4+3」などのリズムを持つ場合など、整った形式であることが強く意識されるときにその傾向が顕著に見られ、その場合はWh₂を定表現に置換できず、副詞“就”も必須ではなくなる¹¹⁾。

(44) 我的悟性相当高, 学谁像 [谁 / *他] (……) (= (43))

(45) 谁先回家 [谁 / *他] 做饭。 (= (1))

(46) 见什么人说什么话, 到什么地方说什么话。(《中国传统相声大全》)

11) “就”を含む(B)の文ではWh₂を“他”に置換できる。そのため、(45)では2つのWhが“就”に代わって接続機能を担っていると見なすこともできる(杉村2017:14)。

(B) 谁先回家 [谁 / 他] 就做饭。

（出会う人に見合った言葉話し、行った場所に見合った言葉話す。）

これは対ヤリズムを維持し、諺語的な形を留めておくための制約であると推測される。

諺や格言などにおいて、前後に同一の語が生起するものは枚挙に暇がない。その中で条件関係に読めるものには以下のようなものがある。

(47) 说到曹操，曹操就到（噂をすれば影）

(48) 与人方便，自己方便（情けは人のためならず）

(49) 经一事，长一智（1つ経験をすれば1つ知識が増える）

この種の表現は、疑問詞以外の語が用いられているという点を除けば、形式的には(44)から(46)の疑問詞連鎖構文と何ら変わるところがない。疑問詞連鎖構文の形式と諺語の形式には明らかな連続性が見られる。

意味的側面に目を向けてみても、諺語は普遍的に通用する真理や原則を述べるものであるが、疑問詞連鎖構文も習慣用法において恒常的な規則性や法則性を表すことができる。意味の面から見ても両者は比較的近い関係にあると言うことができよう。ただし、疑問詞連鎖構文は推論に基づく話者自身の解釈・見立てを表すものであるという点で、広く人々に認知・共有された真理や原則を表す諺語とは根本的に異なっている。端的にいえば、疑問詞連鎖構文は個人的・臨時的な規則を表し、諺語は公共的・普遍的な真理を表すのである。疑問詞連鎖構文の習慣用法は、あくまでも「格言ふう（杉村 2017:8）」の表現であって、諺語の体を装った疑似的諺語にすぎない¹²⁾。

本稿はここまでの議論で、同一の疑問詞を2度用いるという疑問詞連鎖構文特有の形式が、多対多関係の複文を構成し、事態実現の在り方の多様性を表すための基盤であることを明らかにしてきた。本節で見た諺

12) 実際に疑問詞連鎖構文が正式な諺として定着することはあまりないようである。例外としては“哪壶不开提哪壶（触れてほしくないところに触れる）”などがある。

語らしさを作り出す働きもまた、この形式によってもたらされている副次的効果であると言えるだろう。Wh₁ と Wh₂ という2つの疑問詞には、単に同一指示というだけでは留まらない、それよりも遥かに大きな意図が込められているのである。

参考文献

- 木村英樹 2008、中国語疑問詞の意味機能——属性記述と個体指定一、『日中言語研究と日本語教育』創刊号
- 木村英樹・大西克也・木津祐子・松江崇 2017、中国語史における疑問詞の指示特性——〈人〉を解とする疑問詞を中心に——、『楊凱榮教授還曆記念論文集中日言語研究論叢』、朝日出版社
- 島津幸子 2013、“一A就B”構文の非プロトタイプの意味、『ことばとそのひろがり』(5)——竹治進教授退職記念論集——』
- 杉村博文 1992、疑問詞連鎖構文の研究、『言語の対照研究と語学教育』大阪外国語大学
- 杉村博文 2017、『現代中国語のシンタクス』、日中言語文化出版社
- 白尚輝 2012、ツングース諸語のWH 相関構文の分布に対する類型的考察、『北方言語研究』
- 胡松柏 2001、疑問代詞疊用式的句法与语义分析、陆丙甫・李胜梅等编《语言研究论集》
- 李宗江 2009、“爱谁谁”及相关说法、《汉语学习》第1期
- 铃木庆夏 2015、现代汉语疑问代词前后照应的语法构式——如何理解“谁先回家谁就做饭”这类句法格式?、《语言教学与研究》2015年第2期
- 吕叔湘 1944、《中国文法要略(下卷)》、商务印书馆
- 王力 1954、《中国语法理论(下册)》、中华书局
- Cheng, Lisa Lai-Shen & Huang, C.-T. James. 1996. Two Types of Donkey Sentences. *Natural Language Semantics*. 4.2
- Luo, Qiong-peng & Crain, Stephen. 2011. Do Chinese Wh-conditionals Have Relatives in Other Languages? 《語言暨語言學》12.4.
- R. S. McGregor. 1972. *Outline of Hindi Grammar*. Oxford University Press.

用例出典

陈亚辉《酒局》，湖南文艺出版社／海岩《河流如血》，人民文学出版社／何诚斌《老儿戏》，当代世界出版社／易中天《国家》，浙江文艺出版社・北京出版社／《中国传统相声大全》，文化艺术出版社／北京大学中国语言学研究中心语料库（CCL）

【付記】 執筆の過程で、多くの先生方や仲間たちから貴重なご意見をいただきました。島津教授からは、構想中の段階で条件文に関する重要なお助言をいただきました。記してお礼申し上げるとともに、島津教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

* 本稿は平成28年度～30年度科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号16K16817）による研究成果の一部である。

